

次の100年へ、宿泊業界の道筋を示す

多田計介・全旅連会長に聞く

全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会（全旅連）は9月13日、東京のホテルニューオータニで節目となる第100回の全国大会を開く。コロナ禍で昨年、一昨年はリモートによる大会となり、リアルでの開催は3年ぶり。当日は千人規模の参加が見込まれ、各種のセレモニーに加え、要人の来訪、記念講演も予定。宿泊業界の結束力を示す絶好の機会となる。多田計介会長（石川県ゆけむりの宿美濱荘会長）に今後の組織運営と記念大会開催に向けた現在の心境を語っていただいた。

（東京の全国旅館会館で。聞き手＝本社・森田淳）

——新型コロナの発生から2年半。業界の現状をどう捉えているか。

試練の連続で最悪の状況に変わりはなく。国や地方自治体はさまざまな手を打っていただき、打たなければもっとひどくなっていたとは思いますが、コロナ禍の2年目以降はわれわれ宿泊業にとって効果のある施策が少なかつたように感じる。

コロナによる負債は、ほかの業界もあるだろうが、われわれの業界は特にダメージが大きい。

組合員の声をしっかりと政治の場へ

日本独自の文化「旅館」を絶やしてはならぬ

今の行動制限がない形がキープされない、また国による旅行需要喚起策が早期に開始されない、さらに大変なことになる。宿泊業界の政治の場にしっかりと声を届ける活動が、より強くやらねばならないと感じている。われわれを所管する厚生労働省、そして観光をつかさどる観光庁と連携を密に、元のレベル、あるいはそれ以上のステージに乗せる努力をしたい。

——いわれる「ゼロゼロ融資」の返済が始まると、事業者のさらなる経営破綻が懸念される。

——「いわれる」ゼロゼロ融資の返済が始まると、事業者のさらなる経営破綻が懸念される。売上げが100に戻っていないところで返済が始まる。

——全旅連は新年度、SDGsの取り組みに力を入れる。具体的には、プラスチックの削減と、さらに重要なのは食材の完結使用。食べ残しのごみをどう減らしていくか。業界団体としてしっかり啓蒙していく。残飯が出なければ、食材を買い戻し、中規模クラス以上の旅館では合わせて年間1千万円に減らしていく。先月（7月13日）の全旅連シルバースター部会総会で、「食品ロス削減」を減らすために旅館ホテルでできることを

——「SDGsへの取り組み」が、特に外国人観光客にとっては重要な指標になる。外国人の目標がどこにあるのか、観光庁が持っているビッグデータを活用して、しっかり分析する必要があります。

——人手不足への対応や生産性向上も今後の宿泊業界の大きな課題だ。

——国内旅行、特に企業を中心



SDGsの取り組み強化 食材の完結使用、プラ削減へ

——「SDGsへの取り組み」が、特に外国人観光客にとっては重要な指標になる。外国人の目標がどこにあるのか、観光庁が持っているビッグデータを活用して、しっかり分析する必要があります。

5面に続く

第100回全旅連全国大会特集（3～6面）

MISAWA

選ばれる宿に生まれ変わる

ミサワリフォームがお宿の魅力を最大限に引き出します

越中五花尾温泉 山帽子様